

東京都立府中療育センター 第38回地域療育講習会アンケート結果  
 「府中療育センターにおける重症心身障害児者とのコミュニケーション実践報告」

令和8年2月13日(金)午後2時から4時まで

【 聴講申し込み数について 】

	施設数	人数	web申し込み件数
総数)		157人	
内訳) 地域施設従事者	31所	101人	43件
ご家族		1人	1件
府中療育センター従事者		55人	( Web:33人 会場:22人 )

\* 地域施設従事者については、個人ごとに申し込まれた施設と、1件の申し込みで複数人で聴講される施設がありました。

【 アンケート回収人数について 】

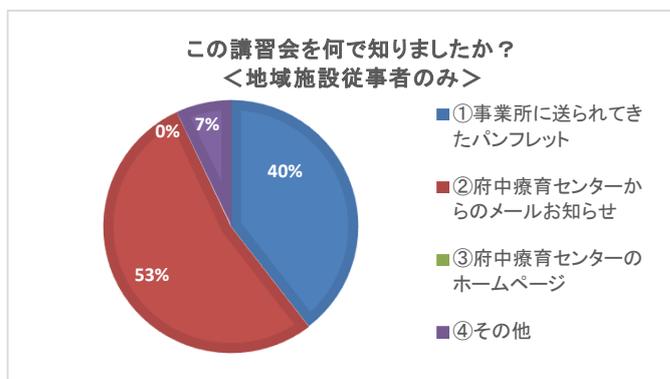
	人数	回収率	聴講申し込み者数
総数)	63人	46.6%	135人
内訳) 地域施設従事者・ご家族	44人	43.1%	102人
府中療育センターWeb聴講者	19人	57.5%	33人

1 この講習会を何で知りましたか？

<地域施設従事者のみ>

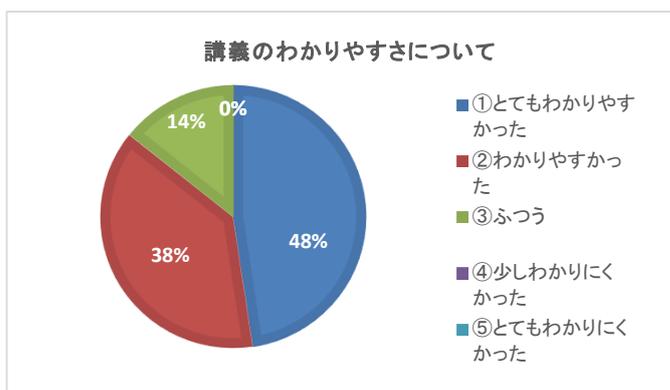
該当項目	件数
①事業所に送られてきたパンフレット	17
②府中療育センターからのメールお知らせ	23
③府中療育センターのホームページ	0
④その他	3
合計 (地域施設従事者Web申し込み件数)	43

④その他・・・事業所内の情報:2件 発表者からお知らせ:1件



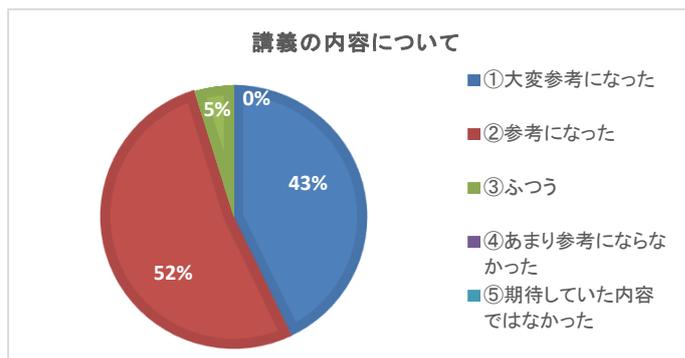
2 講義のわかりやすさについて

該当項目	件数
①とてもわかりやすかった	30
②わかりやすかった	24
③ふつう	9
④少しわかりにくかった	0
⑤とてもわかりにくかった	0
合計 (アンケート回収人数)	63



3 講義の内容について

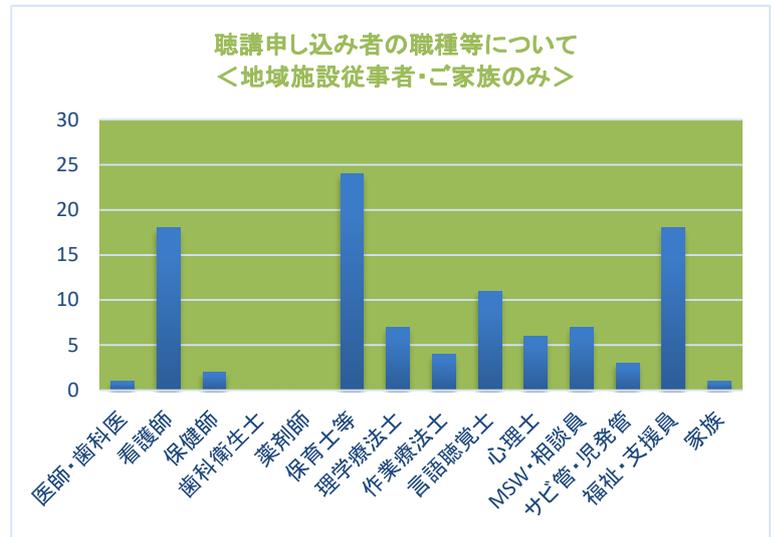
該当項目	件数
①大変参考になった	27
②参考になった	33
③ふつう	3
④あまり参考にならなかった	0
⑤期待していた内容ではなかった	0
合計 (アンケート回収人数)	63



#### 4 聴講申し込み者の職種等について

<地域施設従事者・ご家族のみ>

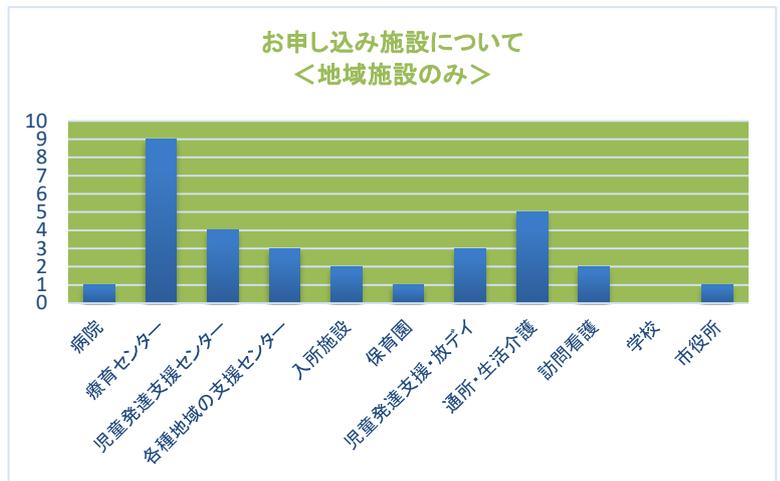
該当項目	人数
医師・歯科医	1
看護師	18
保健師	2
歯科衛生士	0
薬剤師	0
保育士等	24
理学療法士	7
作業療法士	4
言語聴覚士	11
心理士	6
MSW・相談員	7
サビ管・児発管	3
福祉・支援員	18
家族	1
合計（地域施設従事者・ご家族人数）	102



#### 5 お申し込み施設について

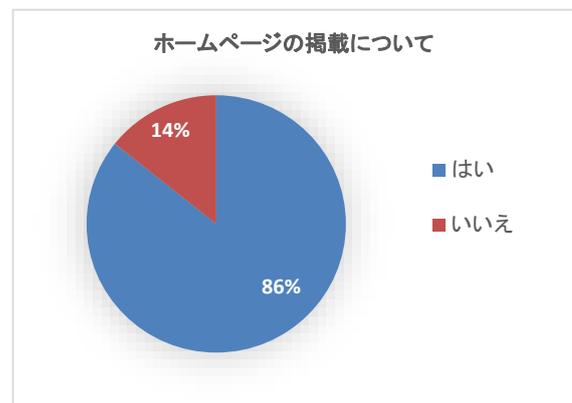
<地域施設のみ>

該当項目	件数
病院	1
療育センター	9
児童発達支援センター	4
各種地域の支援センター	3
入所施設	2
保育園	1
児童発達支援・放デイ	3
通所・生活介護	5
訪問看護	2
学校	0
市役所	1
合計（地域聴講申し込み事業者数）	31



#### 6 ご意見等を無記名で、当センターホームページにアンケート集計結果として掲載してもよろしいでしょうか？

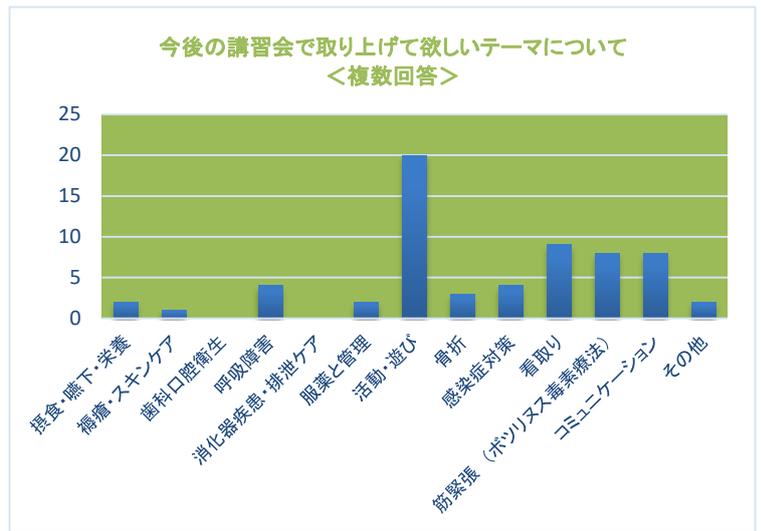
	件数
はい	54
いいえ	9
合計（アンケート回収人数）	63



7 今後の講習で取り上げて欲しいテーマについて

<複数回答>

テーマ	延べ人数
摂食・嚥下・栄養	2
褥瘡・スキンケア	1
歯科口腔衛生	0
呼吸障害	4
消化器疾患・排泄ケア	0
服薬と管理	2
活動・遊び	20
骨折	3
感染症対策	4
看取り	9
筋緊張（ボツリヌス毒素療法）	8
コミュニケーション	8
その他	2
合計	63



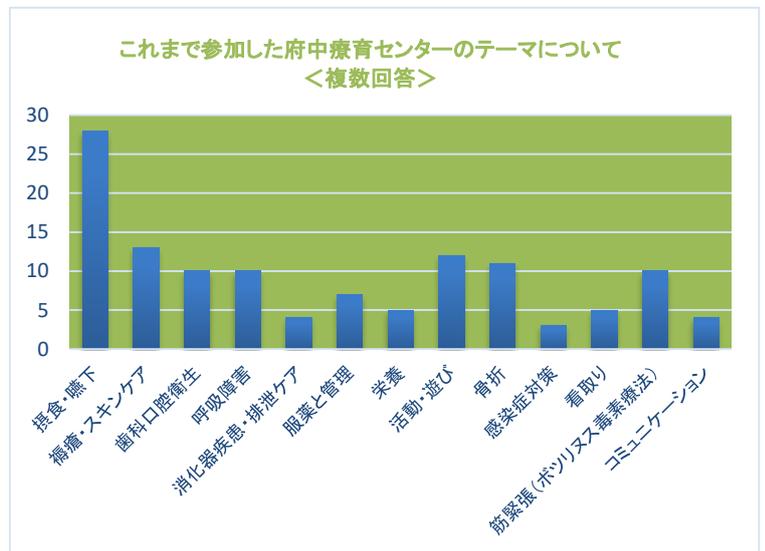
<今後の講習会で取り上げてほしい その他のテーマ>

- ① 重症心身障害児、肢体不自由児と多動の子供とが混在する療育現場となつての取り組み、工夫について
- ② 障害者権利条約総括所見の活かし方、障害者への接遇、支援者支援の在り方、地域のニーズをどのようにくみ取って活かしているのか、権利擁護について、福祉・医療・保健・教育の連携、支援の見える化への工夫

8 これまでに参加した府中療育センターの講習会のテーマについて

<複数回答>

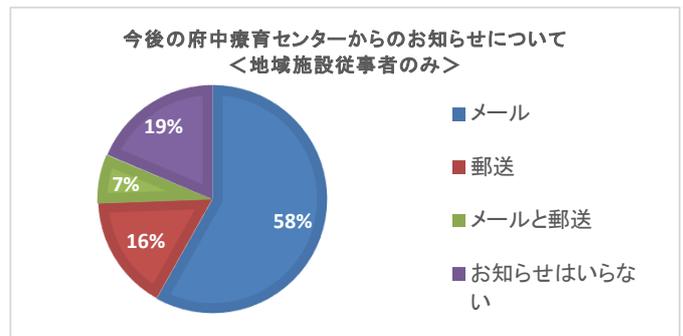
該当項目	件数
摂食・嚥下	28
褥瘡・スキンケア	13
歯科口腔衛生	10
呼吸障害	10
消化器疾患・排泄ケア	4
服薬と管理	7
栄養	5
活動・遊び	12
骨折	11
感染症対策	3
看取り	5
筋緊張（ボツリヌス毒素療法）	10
コミュニケーション	4
合計（複数回答）	122



## 9 今後の府中療育センターからの講習会お知らせについて

### <地域施設従事者のみ>

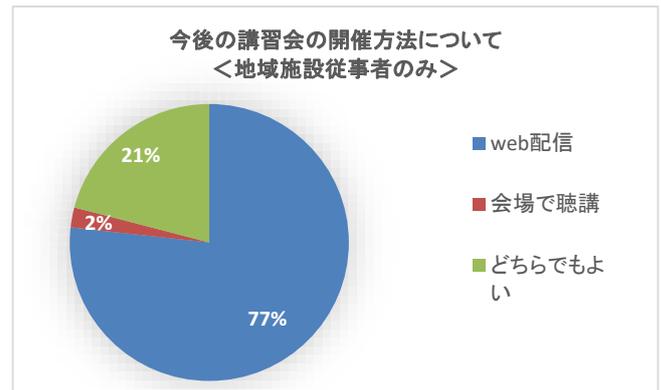
テーマ	件数
メール	25
郵送	7
メールと郵送	3
お知らせは知らない	8
合計（地域聴講web申し込み件数）	43



## 10 今後の講習会の開催方法について

### <地域施設従事者のみ>

テーマ	件数
web配信	33
会場で聴講	1
どちらでもよい	9
合計（地域聴講web申し込み件数）	43



## 11 ご感想

**\*当センターのホームページ掲載にご了解いただけたもののみ、文字等の修正は行わず原文のまま到達順に記載しています。**

- <地域聴講者より>
- 1 いろいろな分野の方たちのお話はとても勉強になりました。違う視点だけでも、相手の気持ちに寄り添うことの姿勢はとても参考になりました。ありがとうございました。
- <地域聴講者より>
- 2 音声が開こえにくくなる場所があった。資料のダウンロードがもう数日はやく出来ると助かります。
- <府中療育センター聴講者より>
- 3 お疲れ様でした。様々な部門での取り組みを実例等を通して知ることができました。また、それぞれ職種の専門性での関わりは重要だと思いましたが、コミュニケーションのベースとなるところは大きく違わないのだなと感じることができました。
- <地域聴講者より>
- 4 電波の状況が悪く、資料が画面で見れなかったり、音声かとびとびになり内容がわかりにくいところがあった。
- <府中療育センター聴講者より>
- 5 さまざまな職種がそれぞれの得意とする方法で、整理しながら、アプローチしていることがわかった。お互いを理解したうえで、多職種連携ができると、素晴らしい効果が得られるのではと思いました。
- <地域聴講者より>
- 6 講習会の開催、ありがとうございました。府中療育センターの事業内容が詳しく知ることができありがたかったです。また、重心児に関わらず発信のないお子さんとのコミュニケーションにおいて、大切にしていきたいことを多く学ばせていただきました。
- <地域聴講者より>
- 7 大変勉強になりました。
- <府中療育センター聴講者より>
- 8 わかりやすい内容で参考になりました。特に「通所におけるコミュニケーション」の中の思い込みコミュニケーションの話と「乳幼児期におけるSTのかかわり～きき上手を目指して～」の表出コミュニケーションチェックリストの話が大変勉強になりました。
- <地域聴講者より>
- 9 実際のエピソードを紹介していただきイメージしやすかった。

- ＜府中療育センター聴講者より＞  
 配信なので難しいところではあるのですが、音声とスライドなどの調整を、もう少し事前に確認しておいていただけたら、よりよいのではないかと思います。
- 10 また、より実例的な場面の要素が多いほうが、より具体的に伝わりやすいと感じました。  
 様々な職種の関わりを教えていただきましたが、センターではそれらの職種同士がどのように、連携してその人のコミュニケーションの表出、意思表示をしているかを共有しているのか、そういった連携部分の内容も、教えていただければと思いました。
- ＜地域聴講者より＞
- 11 重症心身障害児の表現の仕方、コミュニケーションの取り方、遊びの例、決めつけや思い込みに要注意、表現を引き出しやすくするために等、勉強になりました。
- ＜地域聴講者より＞
- 12 日々、利用者の方とコミュニケーションを取る際、思い込みで決めつけていないか反省しました。今後、より丁寧に、関わる時間を大切にしてコミュニケーションの幅を広げていきたいと思えます。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 13 重症心身障害児者とのコミュニケーションは、難しいなといつも感じています。「どっちがよいのかな」「どう思っているのかな」と迷いながら関わっています。きめ細かい観察、時間の余裕を持ってじっくり関わること、いろいろな人とその方について話し反応を共有して、解釈を言い合ってその方の思いを推察すること、大切だと改めて思いました。STの方の発表にあった観察の仕方、参考にしてみたいと思いました。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 14 興味深い講義でした。演者の方々のご苦労や努力が例を挙げていただいたことでよくわかりました。特にタッチケアは良かったです。ありがとうございました。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 15 タッチケアについて知ることができてよかった。また多職種の視点からコミュニケーションについてお話が聞いて良かった。
- ＜地域聴講者より＞
- 16 どの発表の方も重症心身障害(児)者の方の小さな発信を見逃さないようにして、かかわりを持っていこうとされているご様子が伺え、勉強になりました。また、思い込みのコミュニケーションというものは自信を振り返っても、陥ってしまいやすい課題と感じました。その時々におけるご利用者の状況を注意深く観察する事でご利用者の意思をくみ取っていく必要があるのだと感じました。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 16 利用者さんや患者さんとかかわる際、相手の反応を見るようにしていますが、こちらのいいようにとらえがちかもしれないと感じました。相手の気持ちを理解するのはコミュニケーションが取れる者同士でも難しいことがあるので、もっと慎重に対応していかなくては改めて思いました。
- ＜地域聴講者より＞
- コミュニケーションは言葉によるものだけでなく、表情、体動、筋緊張などで表出され、観察と複数名での確認により意思を理解することができることを、あらためて知る機会となりました。すぐに理解できることもあれば、時間がかかることもあります。「思い込み」による理解にはとても注意が必要であることを学びました。こちらからのアプローチに応えるだけではなく、自らが発信すること、発信に気が付くことは大切ではありますが、その人との関係性や職員の受け取る力、受け取りたいという思いにも左右されるように感じます。時間に余裕をもって発信を待つことも必要ですが、発信はその人のタイミングによって生じるので、こちらのタイミングではなく、ふだんの生活の中からそこを逃さずに受け取りたいとも思いました。「この時間なら話が聞けるよ」ではなく、利用者さんの発信したい時を察知できるような、感覚を持るといいなと思います。簡単なことではありませんが・・・私自身、ジッと観察されるととても恥ずかしいのですが、観察するにあたって気を付けていることはありますでしょうか。講習会に参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ＜地域聴講者より＞
- 16 それぞれの視点から1つのことの話を開ける機会はなかなかないため、事例を交えてのお話でとても分かりやすかったです。また、それぞれのお話も適度な時間なため、理解しやすかったです。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 17 ご自分で意思を言語で伝えることが難しい利用者さんと、どのようにコミュニケーションをとっているのかと思っていました。講演を聞いて、きめ細やかな声掛け、些細な反応も見逃さない注意深い観察などから多くの情報を得ていることに感心しました。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 18 ・タッチケアについて勉強になりました。・思い込みコミュニケーションは気づくのが難しいと思うので、自分自身の日々のコミュニケーションに思い込みがないか振り返りたいと思いました。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 19 担当の皆様お疲れさまでした。途中資料映像(パワーポイント)が見れなくなったのは残念でした。
- ＜府中療育センター聴講者より＞
- 20 途中スライドが見えなくなってしまい、残念でした。
- ＜地域聴講者より＞
- 21 多職種それぞれからコミュニケーションに関する考えや、伝え方の工夫が聞いて良かった。

## 12 ご質問と回答

<地域聴講者より ご質問 No15のご感想から、質問部分を抜粋しました>

質問

私自身、ジッと観察されるととても恥ずかしいのですが、観察するにあたって気を付けていることはありますか。

<公認心理師 田村純子からの回答>

何のために観察をするのか、どんなことを知りたいのかを明確にすると、『じーっとみる』は幾分避けられるのかと思います。

例えば・・・

- ・〈関わり始めた頃〉まず、どのような表情や動きをされているか
- ・〈表情や動きに変化がみられるとき〉どのような働きかけをしたか
- ・〈特に働きかけはしていないのに、表情や動きに変化がみられてとき〉周りの状況はどうなっているか
- ・誰が関わっても同じ表出をされているか→相手との関係性により表出に変化がみられることもある
- ・個別で関わっている時と、行事やグループ活動の時との違いは
- ・普段過ごしている病棟(もしくは家庭)での様子との違いは
- ・いつのも表出と違うとき

また

- ・繰り返す、人が変わっても長い期間見ていく→体の変化(成長・老化など)や体調の変化で表出の仕方が変わることもある
- ・他の講師もお話していたように、他職種やご家族といった利用者に関わる方々と情報交換するといったことを通して、客観的に理解していくとよいと思います。

回答  
1

<保育士 正木治美からの回答>

回答『気持ちを読み取るための注目ポイント』を確認していますが、その他に意識していることでは、普段の状態を知る、

2

つかんでおくということかな...と思います。

普段とは変化したり、異なっているということも観察のポイントにして支援にあたっています。

<看護師 小林 薫からの回答>

観察するにあたって気を付けている点は

- ・その方の意思サインは何かをまずは理解(把握する)する→眼球の動きなのか、手を握ってくれるのか、舌を出すのか、表情の変化なのかなど
- ・まずは「YES」「NO」をキャッチする
- ・意思サインがわからない場合は、ご家族から情報をいただく(育ってきた過程でどのような意思表出があったか)幼少期に習得した意思サインの把握
- ・自分以外の職員と利用者様のやりとり(コミュニケーション)を観察することもすごく勉強になります
- ・自分とのやりとりだと、表情に限局してみたりしまいがちなので、取って他者との関わりを観察することで利用者様の全身を観察できます。
- ・中には、下肢を動かして「YES」と返答してくれたりする方もいます。筋緊張は掛物を外した状態で観察するとキャッチしやすいです。

回答  
3

たくさん気を付けていることがありますが、以上のことに留意して観察することだけでも、今まで見えていなかったことが見えたりします。利用者様が表出してくれている、わずかですが精いっぱい返答を私たちが受け取りたいと思い関わる気持ち、関係づくりが重要だと考えています。

<福祉・保育士・医療保育専門士 山田志津子からの回答>

観察とはじっと見ている(眺めている)だけではないと思います。

タッチケアをお伝えしたのとしては、触れて『普段と緊張したタイミングが違うかな』『今日は力が抜けているかな』等、

回答  
4

普段と異なることを見つけることも観察する方法だと思います。

普段と異なることを見つけることや気づいたことがある場合は他の福祉職や多職種に繋げる(情報共有)も大切だと思います。また、なぜそのような反応が見られたのか、関わった前後に何かあったのかを確認し、その理由がわかることで次への関わりを根拠付けになるのではないのでしょうか。

<看護師 矢島 泉からの回答>

回答 観察にあたってですが、他講師の皆様が書いてくださったので、同様です。

5

じーっとみられるのが恥ずかしい利用者様にはもちろん、他職員とのかかわりを観察するのも有効であると思います。その利用者様の特徴に合わせた観察が必要であると思っています。

<言語聴覚士 片岡靖恵からの回答>

“見る時のポイント”といった詳細の内容は他の講師の方々からの回答と重なる部分が多く、割愛させていただきますが、私がお話させていただいた内容からまとめますと、

・事前情報の確認→バイタルサインや姿勢・筋緊張の様子、本人の持つ機能[スライド5枚目参照]などのチェック。加えて、普段との“変化”として出てきやすい、あるいは捉えやすい反応は何か、といった情報は必要と考えます。

・関わっている最中の対象児者からの反応は、まず客観的事実(発表内では“表現方法”)を把握する。

[「表出コミュニケーションチェックリスト」部分参照]

その反応や行動の意図・意味がすぐに“ひとつ”に決まる訳ではなく、他者からの情報や少し離れたところからの観察やくり返しの関わりの中で、時間をかけて“より確からしい”ものとなることを念頭に入れておくことも大切です。

そして、発表内で伝え切れなかった事としては、

●こちら(関わり手)は、相手に対して「何でも言ってください」「嫌って言ってもいいです」「どんなふうに伝えてもらっても構わないですよ」という心持ちでいるようにします。“向かい合っている”関係ではなく、“隣同士並んでいる”関係でいるように意識することで、相手へのプレッシャー？ストレス？が少しでも軽減することを狙います。

回答  
6